

## 公立学校情報機器整備事業に係る各種計画 【土庄町】

「GIGA スクール構想加速化基金管理運営要領」(令和 6 年 1 月 29 日文部科学省初等中等教育局長決定)において、公立学校情報機器整備事業を実施しようとする学校設置者が定めることとされている、端末の日常的な利活用に係る計画等について、次のとおり策定しました。

令和 7 年 2 月策定

【土庄町】

端末整備・更新計画

区分	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 10年度
① 児童生徒数	757	740	715	688	656
② 予備機を含む 整備上限台数	-	851	-	-	-
③ 整備台数 (予備機除く)	-	740	-	-	-
④ ③のうち 基金事業のもの	-	740	-	-	-
⑤ 累積更新率	-	100.0%	-	-	-
⑥ 予備機整備台数	-	111	-	-	-
⑦ ⑥のうち 基金事業のもの	-	111	-	-	-
⑧ 予備機整備率	-	100.0%	-	-	-

<端末の整備・更新計画の考え方>

- 令和2年度に導入した学習者用端末が令和8年6月にEOL(エンドオブライフ:端末の更新やサポート対応が不可能になる)を迎えるため、令和7年度に必要な台数を整備する。

<更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について>

- 対象台数:823台(令和2年度公立学校情報機器整備費補助金により購入)
- 処分等の方法
  - ・ 給電が可能な端末については、資源の有効活用の観点から、学校及びその他の施設等で活用する予定である。
  - ・ 再使用ができない端末については、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律又は資源の有効な促進に関する法律に基づき、適正に処分を行う。
- 端末データの消去方法
  - ・ 自治体の職員等が行う
  - ・ 処分事業者へ委託する
- スケジュール(予定)
  - ・ 令和8年2月 新規端末の納入(予定)
  - ・ 令和8年4月 新規端末の使用開始  
既存端末(再使用可能分)利活用  
既存端末(再使用不可能分)処分事業者 選定・引渡し

## 【土庄町】

### ネットワーク整備計画

#### 1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合(%)

文部科学省が令和5年11月に実施した「校内通信ネットワーク環境整備等に関する調査」に基づく簡易帯域測定の結果(速報値)を一定の仮定の下で推計すると、学校規模に応じた当面の推奨帯域を満たす本町の小・中学校は、3校中1校(30%)であった。

#### 2. 必要なネットワーク速度の確保にムケタスケジュール

##### (1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

本町において学校規模の大きい小学校1校については、令和6年度中にネットワークアセスメントを行い課題の特定を行う予定である。次いで学校規模の大きい中学校1校については、前述の小学校とネットワーク構成や整備時期が類似しており、同様の課題を抱える状況であると推測されるため、必要に応じてネットワークアセスメントの実施を検討する。

##### (2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

ネットワークアセスメントの結果を踏まえ、順次改善策の検討を開始し、令和8年3月までに改善策を完了させる予定である。

## 【土庄町】

### 校務 DX 計画

令和5年3月文部科学省で、GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議の提言(GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高速化を目指して～)をとりまとめ、次世代の校務DXの方向性が示されたところである。ここでは、現在の校務情報化の課題、今後数年にかけて次世代の校務支援システムの整備やクラウド活用を前提としたGIGAスクール環境の積極的な活用といった、次世代の校務DXの方向性や今後取り組むべき施策が記載された。これらを受け、本町においても教職員の働き方改革の推進に努める。

#### 1. 校務 DX の推進について

校務 DX の推進に向けて、教職員の知識向上及び ICT 支援員の配置により、授業などで効果的なICTの利活用に努める。また、校務効率化のため自動採点ソフトや出席管理システムなどを導入するとともに、教職員の会議や研修などでICT機器や大型掲示装置を活用し、積極的なペーパーレス化に努める。

#### 2. 校務支援システムの導入について

令和7年2月現在、校務支援システムについては予算面と費用対効果の観点から未導入の状況である。今後、システム導入に向けて関係機関と協議を行うとともに、県内各教育委員会と連携し検討を行う。

#### 3. 次世代校務DX環境の整備について

「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」で方向性が示された「次世代校務DX」環境(ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務DXの在り方)を目指し、必要な環境整備について県内各教育委員会と連携しながら、検討を深める。

## 【土庄町】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

令和6年6月、県及び県内の学校設置者が構成員である香川県 GIGA スクール構想推進協議会において、本県における「ICT 環境によって実現を目指す学びの姿」を、「香川のどこでも誰もが質の高い教育を受けられる」ことに定まった。

#### 2. GIGA スクール構想 第 1 期の総括

令和元年よりGIGAスクール構想が始まり、本町では令和 2 年度に 1 人 1 台端末とネットワークの整備等を行った。それに伴い、AIドリルや授業支援ソフトの導入、ICT支援員の配置を行い、児童・生徒と教職員の技術面・運用面のサポートを行った。

これらの成果として、授業でのICT活用が進み、児童・生徒の主体的な学習のサポートに繋がった。一方、課題としてICTの活用に伴う各種機材やアプリケーションの導入、維持管理などのランニングコストの増加、ICTに精通した人材の確保、教職員の研修機会の確保などそれぞれの改善点が見受けられた。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

##### (1) 1人1台端末の積極的活用に向けた目標

GIGAスクール構想第 1 期で導入し、授業などにおいて必要な機材や有償ソフトウェアについて継続した活用を行う。また、デジタル教科書の特性を把握し、効果的な授業に繋がるよう活用する。

##### (2) 個別最適・協働的な学びの充実

児童・生徒が 1 人 1 台端末を活用し、それぞれ自分の考えを表現することで、教職員と児童・生徒それぞれが相互に考え方を共有し、ともに学びあえる環境の実現が期待できる。

##### (3) 学びの保障に向けた目標

ICTの持つ特性を最大限活用し、さまざまな理由により登校が難しい児童・生徒をはじめ、障がいなどの理由で特別な配慮や支援が必要な児童・生徒に対するきめ細かな対応を行い、個別の事情に応じた学びの保障を確保できるよう 1 人 1 台端末の活用に努める。